

くすりが売れない

まちがいい。

おかしな話に聞こえるかもしれませんが。

薬局なのに、くすりが売れないほうがいい、だなんて。

でも、たくさん売れたということは、

それだけの人がどこかで体調をくずしたということ。

だったら売れないほうがいい。

MIZには昔から、お客さまを家族のように考える、という教えがあります。

一包のくすりをお渡しして、それで関係をしまうのではなく。

無事に回復しただろうか。また笑っているだろうか。

その人がもし自分の家族なら、きつとそう気にかけるはずですから。

創業者は、感染症が流行したその日、

自らの危険を顧みず、くすりを抱えて走りしました。

二代目は、原爆が投下された翌朝にはもう長崎へ向かいました。

なぜ、そこまでしたのか。

となりに困っている人がいたから。理由はずっと、それだけなのです。

思えば佐賀は、人と、人のつながりが近いまちです。

知人の話がよく耳に入る。顔が浮かぶ。お元気なんだと安心する。

そんなことが、まだ日々のなかにちゃんと残っている。

だからこそ、思うのです。

すぐとなりに人がいて、顔をじかに見て、肉声を交わし、無事を願うあう。

その「近さ」こそが、

これからの健やかさのエネルギーになるのではないかと。

そんな願いを込めて、このまちの豊かさを育んできたホールに、

新しい名前を考えさせていただきました。

佐賀市文化会館は、〈MIZウェルビーホール〉へ。

誰かの歌に励まされ、止まっていた好奇心が動き出すような瞬間を。

人が集い、感情が色づき、心のつながりが生まれていくような景色を。

この場所からつくっていきけるのが願いです。

くすりが売れないまちがいい。

これからのことを今、そんなふうに考えているMIZです。

あなたのそばで、



家族のように。

佐賀市文化会館は、〈MIZウェルビーホール〉へ。



さあ、変わらないまま、新しく。MIZはこれからも、ウェルビーイングなまちづくりに貢献していきます。